

【吉野ヶ里町】

校務 DX 計画

文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1 校務系・学習系ネットワークの統合

教員不足の中、働き方改革の1つの手段として職員室以外で校務処理ができる環境構築のニーズが高まっている。特に、校務支援システムは、教員が日常的に児童生徒を管理するために利用しているシステムであり、ロケーションフリーでの利用ニーズが高い。また、現状、校務系・学習系のネットワークが存在しているため、教員は校務用端末と指導者用端末を2台保有し、業務に応じ使い分けている。さらに必要に応じデータを外部媒体で連携するなど非効率な業務を行っている。

今後は、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、ゼロトラストの考え方に基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・町情報管理担当・関係業者と連携を図りながら、ロケーションフリーで校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備(教職員用端末の一台化を含む)に向けた調査研究を着実に進める。

2 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムについては、オンプレミス(学校内に備え付けのサーバー)で運用しており、学校現場において教務・保健・学籍・成績管理など様々な校務で利用している。現状の課題として、転校・進学時等、町内間でのデータの引き渡しを行う際においても外部媒体を利用しなければならない等、非効率な業務を行っている。また、クラウドベースではないため、自宅や出張先での校務処理ができないことや大規模災害や感染症等の緊急時の業務継続が困難である。

今後は、教職員間での会議資料等のペーパーレス化、教職員等の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする環境を構築するため、文部科学省「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況を注視しつつ、教職員と学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図るなど、次世代の校務デジタル化に向けた校務系ネットワーク・システム等の現状分析や望ましい校務の在り方に関する検討を行い、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指す。

3 FAX・押印の原則廃止

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時などFAXの方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。